

写真展示 「神国」の残影

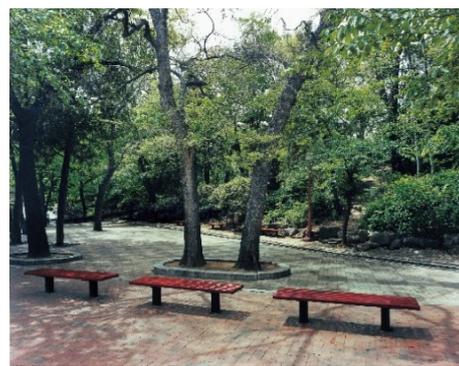
戦前、大日本帝国が勢力圏に取めた版図は広大なものだった。そして、それらの土地にはあまねく神社があった。今は忘れられているが、戦前の邦人植民者は常に神社とともにあった。「帝国日本」は「神国」でもあったのだ。それら神社は、いまどうなっているのか。写真展示「神国」の残影は、写真家稲宮康人が、かつて帝国中に存在した神社のいまの姿を撮影したものである。撮影地は中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシア、サイパン、パラオ、シンガポール等、かつての帝国圏域全てにわたる。これらの写真は、かつて帝国圏にあったことのある各国の日常風景から、アジアと日本、日本の戦後処理のあり方、各国の歴史認識等、歴史と現在の絡まりを浮かび上がらせる。10年以上かけ「神国」の欠片を拾い集めてきた成果を一覧できる展示となっている。



南京神社跡 中国 2016年



佳冬神社跡 台湾 2011年



大邱神社跡 韓国 2011年

研究会 海外神社をつくる 神社以前から幻の計画まで

誰が、なぜ、どこに、いつ、海外神社をつくったのか。こうした基本的な事項すらも不明のままの海外神社が多くある。日中戦争後の創建神社や、中国大陸、東南アジアに創建された神社などは特にそうである。そこで今回は、その不明点に光をあてる企画を行う。稲宮の「最後期の海外神社 拡大・創建・計画」は、大日本帝国の勢力圏の拡大とともに増えていった海外神社は、新規創建、神社創設計画等の拡大運動を最後まで止めることがなかったという発表である。大澤の「入植者の馬來半島大神宮から南方軍の昭南神社に至るまで」は、南進の象徴とも言える昭南神社を、その神社以前の時代からとらえ直す発表である。軍の占領後、突如現れたかのようなイメージのある昭南神社について、英領マレーへの植民者が自主的に造った神社からたどることで、見直しを図るものである。帝国全体を概観する発表と、特定の場所に焦点を当てるといふ二つの発表から、海外神社をつくることについて考えてみたい。



A4 横判・186頁 8580円

非文字資料研究叢書2

「神国」の残影

海外神社跡地写真記録

稲宮康人／中島三千男 著

大日本帝国時代に創建された「海外神社」——その姿を10年にわたって台湾、中国、北朝鮮、東南アジアに追い、最新論考とともに紹介する画期的一冊。



みなとみらいキャンパスへのアクセス

- みなとみらい線「みなとみらい駅」下車 ▶ 徒歩 約6分
 - みなとみらい線「新高島駅」下車 ▶ 徒歩 約4分
 - JR・東急東横線・京浜急行線・相鉄本線・横浜市営地下鉄「横浜駅」下車 ▶ 徒歩 約11分
 - JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」下車 ▶ 徒歩 約12分
- ※ 駐車場・駐輪場はありません。

ADDRESS
〒220-8739
横浜市中区
みなとみらい4-5-3
TEL:045-664-3710(内)